

● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）6 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

プジェウエ - コルドンカウジェ（チリ）（図中 A）

4 日に噴火が始まり、噴煙が 12.2km まで上がり、付近では降灰や軽石の降下もみられた。5 日には少なくとも 5 つの火砕流が生じ、火山灰が 10.7-12.2km まで上がり、1,778 km 東南東まで流れた。噴火はその後も継続し、火山灰は世界を一周して、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ等の他オーストラリア、アフリカ等でも多くの航空便に欠航等の影響を与えた。

ナブロ（エリトリア）（図中 B）

13 日に噴火が始まり、噴煙が 13.7km まで上がり、1,000 km 以上北西にあるスーダンの上空まで流れた。19 日には長さ 15km の溶岩流が北西へと流れた。火山灰の影響でエチオピア、ジブチ、スーダンで航空便に欠航が発生した。この噴火で少なくとも死者 7 名と多数の負傷者が出るとともに、多数の住民が避難を余儀なくされた。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

